北海道登別市 会派合同視察

大野栄光

平成30年8月21～22日

登別市概要

- 人口　48,519人　（H30年3月末現在）
- 世帯数　24,803世帯
- 高齢化率　65歳以上　35.3%　・年間観光客数400万人
- 一般会計　29億65百万

8月21日(火)　学校廃校後の施設利活用について
（のぼりべつ文化交流館カント・レラ）

(1) 学校統廃合から学校施設再生の経緯について

登別温泉中学校は昭和22年5月に創設。昭和37年には184人の生徒が在籍、昭和52年に現在の場所に鉄筋コンクリート3階で建築、昭和62年に大規模改修が行なわれている。生徒数は減少が続き、平成15年度には全校生徒が24名となり、翌16年度より登別中学校に統合される。施設については地域発展の核となるような公共施設として利用して欲しいとの強い要望が出された。市としても協議した結果、遺跡・考古学をテーマとした文化施設として再利用する方向が示された。市民や学校を対象とした講座や体験学習の場として、旧登別温泉学校を利用、「のぼりべつ文化交流館カント・レラ」平成19年6月より オープン。

(2) 学校再生事業の概要について

1. 再生までに懇談会は全部で11回開催。
2. 財源について　平成18年度
   1階部分のみ文化庁および北海道の補助対象、残りは全て一般財源　総事業費52,021千円（うち補助対象1階分20,824千円）
3. 建物や地域の特徴を生かした活用について
   1階部分が市内の遺跡から出土した資料の展示…保管を中心とした博物館機能を有する。
   2階、3階は胆振教育研究所、旧登別温泉中学校・小学校の資料室、貸館として利用。（◎見学は無料　◎体験学習は有料）
4. 運営について
   4月～11月開館期間8ヶ月で人件費220万円　施設の維持費約326万円

(3) 事業の効果について

少しずつではあるが開館後利用者数は増えている。

白石市議会 30.8.30

・リピーターがタイ
・自分のまちの遺跡を知る、
・地域の活性化に繋がるものであり まちづくりの重要な一要素である。

(4) 現在生じている問題点、課題について
課題 … 利用者数と施設維持。
PRを一層行ない、施設自体の認知を高める。
問題点 … 建物は41年を経過しさらに温泉地区の硫黄成分により
損傷、劣化が著しく、雨漏り等の対応などきめ細かい維持管理が必要。

(5) 今後の学校施設再生事業の展開について
登別をテーマとした展示や展示活動を行う環境づくりや情報提供を
行い、市民だけでなく観光で訪れた多くの方々に登別を知って
もらえるようにしてゆきたい。

廃校の利活用の課題と利点…

・大きな施設を どの様に利用していくべきか!
・学校作りの復興が終ったか!
・体育館のような大きな施設がある事も利活用には魅力である。

8月22日(水)　登米市役所内に於いて

9時30分より

下水道使用料改定に関する広報掲載の経緯について

- 終末処理場岩山浄化センターの概要
  - 供用開始　平成2年10月
  - 汚水処理法　オキシデーションディッチ法（エアレーションタンク6池／最終沈殿池12池）
  - 現有処理能力　15,000m²/日

- 下水道使用料改定に至った背景
  1. 人口減少社会の本格化
  2. 節水意識の高まり
  3. 今後迎える施設の更新

  ↓

  使用料収入は先細り、更新費用は増加。
  将来は資金不足に・・・ H33年に資金不足になる。

- 安定的なサービスを提供するためには計画的な経営が必要

  ↓

  平成28年度に「下水道事業経営戦略」を策定

  - 効率化・経営健全化の取組・・・使用料の改定
  - 使用料の改定への取組
    - ① 4年毎に使用料見直しの必要性を検証
    - ② 市内3ヶ所で住民説明会の開催、一年間に渡り行なわれた。

終わりに、
下水道事業の役割の重要さ、使用料改定の必要性の市民への情報提供、市民への理解が重要。